

第8回日野川への想いを

第8回日野川への想いを語る会が、平成14年12月4日14時から会見町総合福祉センターいこい荘にて開催されました。当日は、1市7町1村、鳥取県河川砂防課、米子地方県土整備局、日野総合事務所県土整備局と国土交通省日野川工事事務所の会員が集まり、会で募集していた第5回日野川フォトコンテストの入賞者の発表及び表彰式、会見ふるさとガイドの会代表の岡田昌孫先生おか だまさひこの「川は呼んでいる」と題しての特別講演、「子ども達と川」というテーマで意見交換を行いました。



第5回日野川フォトコンテスト 入賞者の発表及び表彰式

第5回日野川フォトコンテストは「ふるさとの川を見つめて・・・」というテーマにより募集していましたが、応募者数59名による116点の作品の中から、タイトル「日野川の幻想～川霧」で一般Aの部金賞を受賞された米子市の角田敏明さんすみ だ とし あきをはじめ28作品の入賞作品を発表し表彰が行われました。

審査委員長である写真家の矢藤益美さんから「日野川の魅力はまだたくさんあると思います。日野川の本流ばかりでなく支流にも見所はたくさんあると思いますので、探してみてください。」と講評をいただきました。

当日の会場の通路には全入賞作品が展示されており、みなさんの目を引いていました。



語る会が開催されました!

特別講演「川は呼んでいる」

講師である岡田昌孫先生は、古文書に見る水争いの記述の話などを交えながら会見町に古くから言い伝えられている伝承や風土について話され、むかし子供たちは、川遊びを通して、協力性や協調性、忍耐力、達成感を知らず知らずに身につけて成長していき、川は、生命の尊重というようなことを学ぶ場所だったと言われていました。

河川改修は、洪水を防ぎ、水を効率的に田畑に導いていくためには非常に大きな効果を表していると思うが、川幅が非常に狭く深くなっていて両岸はコンクリートブロックの切り立ったような護岸になっている状況が人間を川から遠ざけてしまった結果を生んだとも言われていました。我々住民運動の方でも川にもっともっと親しんでいき、そして川を利用するためにはきれいにするということが肝要で、努力したいことと思われています。



岡田先生は、最後に「私は小学校の教員でしたので、子ども達のために川という生活空間を早く取り戻してやりたいということを自らの少年時代を思い起こしながら強く感じているところです。」として講演を終了されました。

会員による意見交換

「子ども達と川」というテーマの中、各市町村の首長から川への想いを込めて熱心な意見が出されました。

- ・今の子ども達は川で遊ばない。自然環境、原っぱ文化を取り戻していただきたい。
- ・川でたくましく生きる力を養われるべきではないかと思っている。
- ・子孫のために、環境というものを現代人が理解をするべきではないかと思っている。

など。

このグループで何か一つ先を見越した取り組みを行うということでまとまりました。

